

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	嘉悦大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カエツダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ1・2
	学部・研究科等名	経営経済学部
	担当教職員名・役職	教授 渡辺和幸 / 教授 村上正夫
基本情報	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	31
	受入企業等数	18
	受入企業等名	オタフクソース(株)、八戸缶詰(株)、(株)トーコン、マイクロテック(株)、東京美術紙工(協業)、(株)シノダ、(株)サタケ、(株)こんの、三喜技研工業(株)、宇賀神電機((株)、(株)東京精機工作所、ソシオークホールディングス(株)、NPO法人東久留米、マテックス(株)、(株)中里組、ヒノデメタル(株)、(株)トライヤーン、(株)一步堂
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	商店街活動支援NPOや商店街内の個店でのインターンシップも併せて実施している。
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業から課せられた課題に対して市場のニーズ調査を社員と協働で行い、プレゼンテーション資料を作成。最終日に成果を職員・役員の前でプレゼンテーションを行い、評価いただく。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	春学期の「インターンシップ1」履修者全員に対しインターンシップ実習に向けた事前学習を行い、その単位修得者のみが夏休み期間中に1週間～2週間程度実習に行く。更に、実習をすべて修了できた学生に対し(日報で確認)、秋学期の「インターンシップ2」の履修を許可し、秋学期において実習報告書の取り纏め・報告会に参加し、一定の要件を満たせば秋学期の単位認定を行うこととしている。
要素②	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	就職活動の予行演習も兼ねたエントリーシート作成の個別指導や面接のロールプレイングの外に、実習先企業との事前面談や日報・実習報告書の記載方法の説明を行っている。

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	内部報告会において履修生・メンターの投票により優秀者を選抜。選抜された学生は学園祭で成果報告を行い、学長等の審査により最優秀者等を表彰。また、受入企業には後日担当教員が成果報告訪問を行っている。
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	実習初日はメンターが同席し、実習内容再確認を学生と一緒にやっている。また、最終日報告会が開催される場合もメンターが同席。更に、受入企業と学生との間にトラブルが生じた場合は、担当メンターが迅速に対応。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習は春学期中に実施。その内容は、インターンシップガイドンス、自己紹介書作成方法、企業研究・業界研究の進め方、ビジネスマナー訓練、日報・実習報告書作成方法の授業を行う傍ら、受入企業と学生とのマッチングを実施。受入先が確定した後は、担当メンターの指導の下に、自己紹介書の確認、受入先企業研究・業界研究シートの作成、面談のロールプレイング、受入企業事前訪問面談、実習行動計画表作成を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習は秋学期中に実施。その内容は、秋学期初日、日報確認により履修可否をチェック。その際、受入先担当者の講評を確認しながら振り返り指導。履修許可された学生は担当メンターの指導の下、報告書やプレゼン資料を作成。内部報告会発表時間は一人10分、受入企業にも案内。分科会ごとに履修生とメンター投票により優秀者を選抜。学園祭の成果報告会では学長・学部長・キャリアセンター長の審査により最優秀者を表彰。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	受入先企業ごとに担当のメンターを決めており、その担当のメンターが春学期・事前学習の段階から学生の個別指導を行い、夏休み・実習期間中の巡回指導のみならず、秋学期・事後学習も報告書作成等個別指導を行っている。担当メンターは受入先企業と学生との橋渡し、トラブル処理、個別相談も担って常時モニタリングができる体制を構築している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	春学期修了時と秋学期報告会修了時の2回学生アンケートを取り、その結果をメンター会議で報告し、改善点等を共有している。また、アンケート結果を受入企業にもフィードバックして、次年度の改善につなげている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	授業実施期間中は、毎回のメンター会議において、履修生の成果を情報共有しながら弾力的に軌道修正を図っている。また、春学期修了時と報告会修了時の2回学生アンケートを取り、その結果をメンター会議で報告し、メンターの意見等も聴取しながら改善点等を共有している。更には、アンケート結果やメンターの意見等を受入企業にもフィードバックして、受入企業の意見等を踏まえて次年度の改善につなげている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業での取り組みに応じて、5日～10日間のインターンシップを行っている。
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	受入企業の負担を軽減するためメンターを配置・活用している。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入先がインターンシップ受入経験のない中小企業のため、企業の負担を軽減するため中小企業指導経験の豊富な中小企業診断士等をメンター役に配置し、メンターが企業の相談に乗りながらインターンシップを行っている。春休み期間中に担当教員と担当メンターと企業側で前年度の振り返りと次年度の実習内容等の再確認を毎年実施。また、担当メンターが春学期中に学生を引率して実習内容等擦合せ、実習期間中の巡回指導を実施。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	嘉悦大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	キャリアセンター長
	担当者氏名	南部智子
	電話番号	042-460-7646
	メールアドレス	career@kaetsu.ac.jp